

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200536		
法人名	株式会社 宇宙SORA		
事業所名	グループホーム ファミリア西脇 1F		
所在地	静岡県静岡市駿河区西脇521-1		
自己評価作成日	平成24年1月12日	評価結果市町村受理日	平成24年3月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 aigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2294200536&SC

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所		
所在地	静岡市葵区紺屋町5-8 マルシビル6階		
訪問調査日	平成24年1月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念にある「入居者・家族・職員＝家族」の実現に向けて、安全、安心に生活するために柔軟に対応し、尊厳に配慮した支援を行いつつ、ひとつ屋根の下で生活する家族として明るく楽しい温もりのある雰囲気大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

洋風な外観のたずまいが印象的な事業所である。職員が自然体であること、利用者が生き生きと暮らすこと、施設らしさを感じさせないようにすることなどを心がけている。毎日一人ひとりの利用者と20分話をするをモットーとし、職員の輝く笑顔が利用者の笑顔を誘っていて、明るく大家族のような雰囲気を作り上げている。また医療面のバックアップが充実していて、「①協力医は月に2回の往診があり、24時間対応も可能である」「②少しのことでもFAXでこまめに報告を入れて常に利用者の状態を把握してもらうことで迅速かつ適切な指示を仰ぐことができる」「③週に1回看護師も勤務している」のできめ細やかな健康管理が実現できている。多面的な関わりが利用者の健康維持につながり、家族にも安心してもらえている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念を玄関に掲示し、毎朝復唱している。 明るい雰囲気のある「家族の和」を目指している	朝の申し送り時に理念を復唱しているが、理念にとらわれすぎること避けたいという考えから、自然な流れの中で理念と結びつけて話をするようにしている。職員と利用者の関わりは「家族らしい」「いい触れあいができる」と管理者の目に映っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会及び自主防災組織に加入しお祭りや運動会、町内の防災訓練に参加している。 毎月施設通信(ファミリア)を作成し、西脇町内の回覧板に入れていただき、町内の方に閲覧してもらっている	地域の情報は回覧板でも把握できるが、町内会長も直に伝えてくれる。毎月通信を回覧板で回してもらい、事業所への理解を深めてもらっている。そのため、散歩をしていると「ファミリアの人」とわかってもらえることが多くなってきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護相談に来られた方や、見学に来られる方に、相談事等を聞きいたり、見学に来られる方には施設等の説明など、できるだけ解りやすく話しをしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域防災について話し合ったり、認知症介護について話しをしている 入居者様のご家族、地域住民の方々の意見を取り入れて職員、会社にも伝え改善を図っている	おおよそ3ヶ月に1回のペースで開催している。 民生委員とは独居の高齢者の相談があったり、一方で苦言をもらったりと、親しいやりとりがある。昨年の震災以来防災面についての話題が多くなっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき、相談にのっていただいたり、アドバイスしていただいている	市の職員は年1回、包括は毎回運営推進会議に参加してくれる。市主催の研修にできるだけ参加したり、グループホーム連絡協議会に加盟して、情報や意見交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0宣言をしている 毎月のミーティング等で拘束をしない介護、スピーチロックの意識向上を目指している	毎月のミーティングで話し合い、スピーチロックについて「なぜ言っただけいけないのか」といった具体的な内容を意識づけすることで、徐々に理解が深まり発語も減ってきていると管理者は感じている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的にミーティング時に話し合う 常に「不適切なケア」が虐待に繋がっていくことを意識しケアしている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様のご家族からの相談に応じ、ミーティング時に職員に知識として話をする事がある		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約・改定、全てにおいて、入居者様・ご家族に、十分な説明を行い、理解と納得をしていただいてから契約を締結している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には、入居者様・ご家族・職員で会話をする機会をもうけたり、介護計画の説明時できる限り聞くことを大切にしている	面会時に利用者の日頃の様子を伝えていて、1家族につき30分と密に話しているので信頼関係が深まっている。面会に来れない家族にも電話を入れて状況報告をしている。車いすの空気入れを購入したり食事にパンの日を設けたりと、家族の意見を反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	社内のホーム長会議での内容を職員に伝えたり、ミーティングで話した事をホーム長会議で報告をしたりしている	外部研修に参加したい職員には手当を出して意欲を尊重している。昼食を作る担当を日勤から早番に替える改善もなされていて、各々休憩をきちんと取れ、日勤者が利用者と関わる時間も増えている。管理者は何気ない雰囲気の中で職員と話すことを心がけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境の改善には常に取り組んでいる、職員の体調不良には特に配慮している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人に合った外部研修へ参加している 毎日のケアにおいても常に勉強である意識するように働きかけている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	静岡市内の他グループホーム事業者会合を行い、色々な情報を運営に役立てている 外部研修への参加を積極的によびかけている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に入居者様と職員が十分なコミュニケーションを図り、ご本人の訴えを受容・共感し安心した生活を送る事ができるような関係を作っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居説明時に管理者とご家族が面談を行い、訴えや相談に親身に耳を傾け、入居後に入居者様・御家族共に安心できるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	要望と状況を判断し、入居者様の状態を見極めたうえで、必要なサービスの検討・実施を行う		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「できる限り自立した生活を送る」を目標とし、できる事をみつけ、職員と家事などを一緒にやっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	「身体状況のお知らせ」を作成し、ご家族に様子を連絡したり、通院の付き添いをお願いしたり、衣替えや必要な物品の購入もお願いしている 面会時にもゆっくり話ができる様に配慮している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会者の訪問、入居者様の外出も円滑にケアするように勤めている	近所の人、友人など利用者との関係がわかる人に関しては訪問を歓迎している。ドライブで職場や生家の前などを通り、雰囲気を感じてもらうこともある。利用者の要望は家族に伝えて、一緒に墓参りに行ってもらっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自発的な関係が築けるように職員が間にはいつている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後に相談を受ける事がある		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の話から思いを把握している 一人ひとりと、さらに話ができるように努めている	自立の時にできていたことや、やりたいことなど情報をより多く収集しておくことで、ADLが低下してもできる支援につながっている。そのためアセスメントシートは10ページ以上にも及ぶ膨大な量の情報を書き込んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族に確認をしながら、記録・申し送りにおいて職員間で情報を共有するようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調、身体状態に応じてさらに生活の変化を常に観察し、日々の変化の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	情報を聞き、ミーティングにて話し合いを行う 居室担当と計画作成担当者と再度話し合いをする	モニタリングはプランの軸となるので全職員で取り組み、居室担当者と計画作成担当者がケアカンファレンスシートに落とし込み、毎月のミーティングの意見を織り交ぜて計画作成担当者がプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録の記入も、連絡ノートを活用し口答でも報告・相談を行い、情報の共有することでより良いケアの実践に努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出支援、退院付き添いなど、出来る限り支援している		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外に出る機会を作っている 地域のお店まで外出して昼食をとる事もある		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みの主治医を持ち、ご家族の付き添いで通院している その他は提携医があり、月2回の往診・24時間対応できるよう体制を整えている	月2回の往診があり24時間対応であるのでほとんどが協力医に変更している。非常勤の看護師も週に1日勤務していて、24時間いつでも連絡が取れる体制である。受診記録は看護師のノート、介護記録、ナースファイル(職員記入)に記載して情報共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回看護師が勤務し、健康管理等をしている、日々の変化を伝え、情報共有している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居時には、情報を提供し、入居中もご家族・職員・病院関係者と連携する事で、経過を把握して退院後の生活に備える		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の契約時に重度化した場合の対応の指針の説明を行い希望を聞く、家族と主治医が相談しながら、最善の選択ができるよう支援している	半年に1回緊急時の対応マニュアルに基づいて勉強会を行っていて、連絡体制を整えている。入居時に事業所でできること、できないことを説明し、家族の希望を聴いている。家族の思いを尊重しながら今後の方針について話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを整備し、応急手当・急変時の対応を教育し看護師から指導も行っている 提携医は24時間体制のコール対応を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の防災訓練に参加し施設の訓練にも地域の方・ご家族も参加している 備蓄も用意を進めている	食料の備蓄は水48ℓと氷砂糖2～3kg用意している。その他毛布やシート、おむつ、トイレ、薬(約2週間分)もある。消防自主点検表で毎日チェックして、防災に対する意識も高めている。夜間想定を含む防災訓練を年2回行っている。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しみをもった、暖かい言葉で話し、プライバシー空間に配慮し、身体介護などを行っている	職員の慌ただしい動きは利用者に伝わりやすいのでゆったりとした動きを心がけるようにしている。ミーティングの中で目上の人を敬うことについて再認識してケアに取り組むよう伝えている。訪問時は利用者を温かく肯定する職員の姿勢を視認できた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定を引きだせるような声掛けをし、、思いを聞くように心掛けている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員教育において、常にケアを優先するように教育している 常に一人ひとりの生活のペースを大切にしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容の際に、どのくらい切るか等本人の希望を聞く、向かいにある衣料品店と一緒に行き本人に選ぶ機会を作る		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に合った旬の野菜を使うようにしている。行事にあったメニューになっている。ホームでの家庭菜園でとれた野菜も使っている 食べたいものを取り入れることもある(楽しみの一つとして外出に行く事もある)。職員も入居者様と一緒に食事する	管理栄養士がメニューを構成している。週に3日食材を外注で取り寄せて職員が作っている。米とぎ、野菜の下ごしらえ、おぼん拭きなど利用者も参加している。小鉢を多用して家庭的な味わいと温かみの感じられる食事を提供している。行事食にも取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は管理栄養士が作成している 食事や水分の過不足のないよう配慮している その日の体調にも考慮し、一人ひとりにあった量で支援をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを習慣とし、無理なく行えるようにしている 希望される方は協力歯科医院の往診をうけている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し誘導や声掛けを行う「トイレ」と言えない方は、少しの変化も見逃さないようにしている	利用者のリズムに合わせた支援をしている。家族の経済的な負担を軽減するためにパットの使用量を減らすことにも取り組んでいる。おむつからリハパン、リハパンから布パンツと改善に繋がったケースや睡眠導入剤の使用量を徐々に減らすことで状態が安定した事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳・ヨーグルト・食物繊維の多い食材を多めにメニューに取り入れている 水分摂取表を確保し指示薬の確実な服用を支援し便秘予防と改善を目指したケアをしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来る限り希望にあわせて入浴をしている 本人のペースにを大切に、ゆっくり入浴していただき、リラックスして入浴できるような雰囲気づくりに努めている	1人あたり30分とゆったり時間をかけて1対1の介助で入浴を実施している。週に2~3日の入浴を旨としているが毎日入る利用者もいる。職員の配置が安定している間は時間の変更も対応可能である。入浴剤を使用したりゆずを入れることがある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活のパターンがあるため、日中休む方もいる。日中居室で過ごす時間も大切にしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更・追加などは、看護師・職員で情報を共有している 全職員で配薬を行い誤薬・飲み忘れのないよう管理している いつでも薬剤情報を確認できるようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事は男性女性問わず出来る方が職員と一緒にやっている 生活が単調にならないよう、(花や野菜の手入れ・水まき・裁縫・工作・日曜大工・体操・歌を唄う)などレクリエーションの時間を作り行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のいい日は散歩にでかけたり、向かいの衣料品店にいっている イベント時にはご家族にも声をかけ、参加していただいている	年に1回お弁当を持って高松公園に全員で外出している。イチゴ狩り、ショッピングセンターでの買い物、コスモス畑、雑貨店などに出かけている。近隣でそば、ラーメンなど外食をすることもある。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の判断で、本人が所持している方もいるが、ご家族からお小遣いとして預かり、職員が代わりにおこなっている ほしいものがあれば出来る限り一緒にいく		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族から施設に電話がかかってきたときに、ご本人と代わり、話をさせていただくこともある		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく、季節を感じる事ができるようにしている 換気も積極的に行っている 職員の立ち振る舞いも圧迫感のないように配慮している	テレビとソファを置いてゆったりとくつろげる空間と食事をする空間が分かれている。行事写真や折り紙などのレク作品が飾ってあり、明るく楽しい雰囲気になっている。掃除をする際は利用者と一緒に利用者もできる人は一緒に取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂やリビングで過ごされたり、居室で入居者様同士で会話されていたりする 居室で一人でくつろがれている事もある		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様に可能な限り、馴染みの物を持って来ていただいたり、家族写真や仏壇を置いている方もいる 居室の清掃なども職員と一緒にいる	クローゼット、ベッド、エアコンが備えつけてある。ラジカセ、衣装ケースなど好みのものを持ち込み、利用者にあった居室作りをしている。床にマットレス、布団を敷いて寝ている利用者もいる。布団は週に1回を目安に干して、清潔を保持している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立と安全のバランスに配慮し、見守っている 適切な声掛けで過度な支援にならないようにしている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200536	
法人名	株式会社 宇宙SORA	
事業所名	グループホーム ファミリア西脇 2F	
所在地	静岡県静岡市駿河区西脇521-1	
自己評価作成日	平成24年1月12日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 aigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2294200536&SC

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所	
所在地	静岡市葵区紺屋町5-8 マルシビル6階	
訪問調査日	平成24年1月28日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念にある「入居者・家族・職員＝家族」の実現に向けて、安全、安心に生活するために柔軟に対応し、尊厳に配慮した支援を行いつつ、ひとつ屋根の下で生活する家族として明るく楽しい温もりのある雰囲気大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

洋風な外観のたずまいが印象的な事業所である。職員が自然体であること、利用者が生き生きと暮らすこと、施設らしさを感じさせないようにすることなどを心がけている。毎日一人ひとりの利用者と20分話をするをモットーとし、職員の輝く笑顔が利用者の笑顔を誘っていて、明るく大家族のような雰囲気を作り上げている。また医療面のバックアップが充実していて、「①協力医は月に2回の往診があり、24時間対応も可能である」「②少しのことでもFAXでこまめに報告を入れて常に利用者の状態を把握してもらうことで迅速かつ適切な指示を仰ぐことができる」「③週に1回看護師も勤務している」のできめ細やかな健康管理が実現できている。多面的な関わりが利用者の健康維持につながり、家族にも安心してもらえている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念を玄関に掲示し、毎朝復唱している。 明るい雰囲気のある「家族の和」を目指している	朝の申し送り時に理念を復唱しているが、理念にとらわれすぎることには避けたいという考えから、自然な流れの中で理念と結びつけて話をするようにしている。職員と利用者の関わりは「家族らしい」「いい触れあいができる」と管理者の目に映っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会及び自主防災組織に加入しお祭りや運動会、町内の防災訓練に参加している。 毎月施設通信(ファミリア)を作成し、西脇町内の回覧板に入れていただき、町内の方に閲覧してもらっている	地域の情報は回覧板でも把握できるが、町内会長も直に伝えてくれる。毎月通信を回覧板で回してもらい、事業所への理解を深めてもらっている。そのため、散歩をしていると「ファミリアの人」とわかってもらえることが多くなってきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護相談に来られた方や、見学に来られる方に、相談事等を聞きいたり、見学に来られる方には施設等の説明など、できるだけ解りやすく話しをしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域防災について話し合ったり、認知症介護について話しをしている 入居者様のご家族、地域住民の方々の意見を取り入れて職員、会社にも伝え改善を図っている	おおよそ3ヶ月に1回のペースで開催している。民生委員とは独居の高齢者の相談があったり、一方で苦言をもらったりと、親しいやりとりがある。昨年の震災以来防災面についての話題が多くなっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき、相談にのっていただいたり、アドバイスしていただいている	市の職員は年1回、包括は毎回運営推進会議に参加してくれる。市主催の研修にできるだけ参加したり、グループホーム連絡協議会に加盟して、情報や意見交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0宣言をしている 毎月のミーティング等で拘束をしない介護、スピーチロックの意識向上を目指している	毎月のミーティングで話し合い、スピーチロックについて「なぜ言っただけいけないのか」といった具体的な内容を意識づけすることで、徐々に理解が深まり発語も減ってきていると管理者は感じている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的にミーティング時に話し合う 常に「不適切なケア」が虐待に繋がっていくことを意識しケアしている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様のご家族からの相談に応じ、ミーティング時に職員に知識として話をする事がある		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約・改定、全てにおいて、入居者様・ご家族に、十分な説明を行い、理解と納得をしていただいてから契約を締結している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には、入居者様・ご家族・職員で会話をできる機会をもうけたり、介護計画の説明時できる限り聞くことを大切にしている	面会時に利用者の日頃の様子を伝えていて、1家族につき30分と密に話しているので信頼関係が深まっている。面会に来れない家族にも電話を入れて状況報告をしている。車いすの空気入れを購入したり食事にパンの日を設けたりと、家族の意見を反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	社内のホーム長会議での内容を職員に伝えたり、ミーティングで話した事をホーム長会議で報告をしたりしている	外部研修に参加したい職員には手当を出して意欲を尊重している。昼食を作る担当を日勤から早番に替える改善もなされていて、各々休憩をきちんと取れ、日勤者が利用者と関わる時間も増えている。管理者は何気ない雰囲気の中で職員と話すことを心がけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境の改善には常に取り組んでいる、職員の体調不良には特に配慮している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人に合った外部研修へ参加している 毎日のケアにおいても常に勉強である意識するように働きかけている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	静岡市内の他グループホーム事業者会合を行い、色々な情報を運営に役立てている 外部研修への参加を積極的によびかけている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に入居者様と職員が十分なコミュニケーションを図り、ご本人の訴えを受容・共感し安心した生活を送る事ができるような関係を作っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居説明時に管理者とご家族が面談を行い、訴えや相談に親身に耳を傾け、入居後に入居者様・御家族共に安心できるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	要望と状況を判断し、入居者様の状態を見極めたうえで、必要なサービスの検討・実施を行う		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「できる限り自立した生活を送る」を目標とし、できる事をみつけ、職員と家事などを一緒にやっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	「身体状況のお知らせ」を作成し、ご家族に様子を連絡したり		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会者の訪問、入居者様の外出も円滑にケアするように勤めている	近所の人、友人など利用者との関係がわかる人に関しては訪問を歓迎している。ドライブで職場や生家の前などを通り、雰囲気を感じてもらうこともある。利用者の要望は家族に伝えて、一緒に墓参りに行ってもらっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションの参加を促し出来るだけ皆が楽しめるように努力している		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後に相談を受ける事がある		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、今何をしたいのか、という思いを会話の中で聞くように心がけている	自立の時にできていたことや、やりたいことなど情報をより多く収集しておくことで、ADLが低下してもできる支援につながっている。そのためアセスメントシートは10ページ以上にも及ぶ膨大な量の情報を書き込んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族に確認をしながら、記録・申し送りにおいて職員間で情報を共有するようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調、身体状態に応じてさらに生活の変化を常に観察し、日々の変化の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	情報を聞き、ミーティングにて話し合いを行う居室担当と計画作成担当者と再度話し合いをする	モニタリングはプランの軸となるので全職員で取り組み、居室担当者と計画作成担当者がケアカンファレンスシートに落とし込み、毎月のミーティングの意見を織り交ぜて計画作成担当者がプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録の記入も、連絡ノートを活用し口答でも報告・相談を行い、情報の共有することでより良いケアの実践に努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出支援、退院付き添いなど、出来る限り支援している		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外に出る機会を作っている 地域のお店まで外出して昼食をとる事もある		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みの主治医を持ち、ご家族の付き添いで通院している その他は提携医があり、月2回の往診・24時間対応できるよう体制を整えている	月2回の往診があり24時間対応であるのでほとんどが協力医に変更している。非常勤の看護師も週に1日勤務していて、24時間いつでも連絡が取れる体制である。受診記録は看護師のノート、介護記録、ナースファイル(職員記入)に記載して情報共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回看護師が勤務し、健康管理等をしている、日々の変化を伝え、情報共有している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居時には、情報を提供し、入居中もご家族・職員・病院関係者と連携する事で、経過を把握して退院後の生活に備える		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の契約時に重度化した場合の対応の指針の説明を行い希望を聞く、家族と主治医が相談しながら、最善の選択ができるよう支援している	半年に1回緊急時の対応マニュアルに基づいて勉強会を行っていて、連絡体制を整えている。入居時に事業所でできること、できないことを説明し、家族の希望を聴いている。家族の思いを尊重しながら今後の方針について話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを整備し、応急手当・急変時の対応を教育し看護師から指導も行っている 提携医は24時間体制のコール対応を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の防災訓練に参加し施設の訓練にも地域の方・ご家族も参加している 備蓄も用意を進めている	食料の備蓄は水48ℓと氷砂糖2～3kg用意している。その他毛布やシート、おむつ、PTイレ、薬(約2週間分)もある。消防自主点検表で毎日チェックして、防災に対する意識も高めている。夜間想定を含む防災訓練を年2回行っている。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの老いを受容し、心地よく日々の生活を送れるようなケアを心がけている	職員の慌ただしい動きは利用者に伝わりやすいのでゆったりとした動きを心がけるようにしている。ミーティングの中で目上の人を敬うことについて再認識してケアに取り組むよう伝えている。訪問時は利用者を温かく肯定する職員の姿勢を視認できた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉にできない思いを職員が代わりに言葉にするような声掛けをしたり、思いを引き出すよう援助に努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員教育において、常にケアを優先するように教育している 一人ひとりのペースに合わせたケアを心がけその人らしい生活を送れるように努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容の際に、どのくらい切るか等本人の希望を聞く、向かいにある衣料品店と一緒に行き本人に選ぶ機会を作る・入浴時に着る服と一緒に選ぶなど好みに合わせた身だしなみができるよう、支援をしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に合った野菜を使うようにしている。行事にあったメニューになっている。ホームでの家庭菜園でとれた野菜も使っている 食べたいものを取り入れることもある(楽しみの一つとして外出に行く事もある)。職員も入居者様と一緒に食事する	管理栄養士がメニューを構成している。週に3日食材を外注で取り寄せて職員が作っている。米とぎ、野菜の下ごしらえ、おぼん拭きなど利用者も参加している。小鉢を多用して家庭的な味わいと温かみの感じられる食事を提供している。行事食にも取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は管理栄養士が作成している 食事や水分の過不足のないよう配慮している その日の体調にも考慮し、一人ひとりにあった量で支援をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを習慣とし、無理なく行えるようにしている 希望される方は協力歯科医院の往診をうけている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握に努め、失禁を予防し、トイレで排泄できるよう配慮している	利用者のリズムに合わせた支援をしている。家族の経済的な負担を軽減するためにパットの使用量を減らすことにも取り組んでいる。おむつからリハパン、リハパンから布パンツと改善に繋がったケースや睡眠導入剤の使用量を徐々に減らすことで状態が安定した事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳・ヨーグルト・食物繊維の多い食材を多めにメニューに取り入れている 水分摂取表を確保し指示薬の確実な服用を支援し便秘予防と改善を目指したケアをしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来る限り希望にあわせて入浴をしている 本人のペースにを大切に、ゆっくり入浴していただき、リラックスして入浴できるような雰囲気づくりに努めている	1人あたり30分とゆったり時間をかけて1対1の介助で入浴を実施している。週に2~3日の入浴を旨としているが毎日入る利用者もいる。職員の配置が安定している間は時間の変更も対応可能である。入浴剤を使用したりゆずを入れることがある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気持ちが落ち着くような言葉掛けや環境作りを心掛けている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更・追加などは、看護師・職員で情報を共有している 全職員で配薬を行い誤薬・飲み忘れのないよう管理している いつでも薬剤情報を確認できるようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事は男性女性問わず出来る方が職員と一緒にやっている 生活が単調にならないよう、(花や野菜の手入れ・水まき・裁縫・工作・日曜大工・体操・歌を唄う)などレクリエーションの時間を作り行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気のいい日は散歩にでかけたり、向かいの衣料品店にいっている イベント時にはご家族にも声をかけ、参加していただいている	年に1回お弁当を持って高松公園に全員で外出している。イチゴ狩り、ショッピングセンターでの買い物、コスモス畑、雑貨店などに出かけている。近隣でそば、ラーメンなど外食をすることもある。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の判断で、本人が所持している方もいるが、ご家族からお小遣いとして預かり、職員が代わりにおこなっている ほしいものがあれば出来る限り一緒にいく		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族から施設に電話がかかってきたときに、ご本人と代わり、話をさせていただくこともある 手紙を書く事もあり、職員と一緒に文面を考えることもある		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく、季節を感じる事ができるようにしている 換気も積極的に行っている 職員の立ち振る舞いも圧迫感のないように配慮している	テレビとソファを置いてゆったりとくつろげる空間と食事をする空間が分かれている。行事写真や折り紙などのレク作品が飾ってあり、明るく楽しい雰囲気になっている。掃除をする際は利用者と一緒に取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂やリビングで過ごされたり、居室で入居者様同士で会話されていたりする 居室で一人でくつろがれている事もある 廊下の奥にベンチがあるので、そこから外を眺める方もいる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様に可能な限り、馴染みの物を持って来ていただいたり、家族写真や仏壇を置いている方もいる 居室の清掃なども職員と一緒にいる	クローゼット、ベッド、エアコンが備えつけてある。ラジカセ、衣装ケースなど好みのものを持ち込み、利用者にあった居室作りをしている。床にマットレス、布団を敷いて寝ている利用者もいる。布団は週に1回を目安に干して、清潔を保持している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立と安全のバランスに配慮し、見守っている。適切な声掛けで過度な支援にならないようにしている 家事などを喜んでくださる事が多く「人の役にたっている」という気持ちを大切にしている		